

# 支える人を支える 京都の 福祉

2025  
**1**  
no.617

▼4ページ

京都府知事と社会福祉関係者との懇談会を開催

『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です



● 京都府社会福祉協議会会長 年頭挨拶  
● 京都府知事 年頭挨拶  
● 特例貸付フォローアップ相談・支援事業

▼2ページ  
▼8ページ

もえくさ



T.T

今年、阪神淡路大震災から30年を迎えました。この間、災害が繰り返してきている状況に関して社会学者・仁平典宏氏は「災間」という考え方を示しています。災害でより困難な状況におかれるのは平時から困難な状況にある人たちなので、そうした人を支える視点から社会のあり方を根本的に見直そうという考えが込められているそうです。この考えは、今後の災害への備えだけでなく、地域福祉を進める上でも大いに参考になりたいと思います。

また、今年は戦後80年の節目でもあります。ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会の田中熙巳氏は「人類が核兵器で自滅することのないように。そして、核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張りましょう」と訴えました。福祉に携わる者として平和への思いを新たにしています。

京都府社協では第6次中期計画をスタートさせる節目の年です。だれもが尊厳をもっていきることができ、社会をめざして新たな一歩を踏み出しますので、皆様のご理解とご協力をよろしく願っています。

# つながりをいかしてだれもが 尊厳をもつていきることの できる社会をつくる

社会福祉法人京都府社会福祉協議会  
会長 小畑 英明



明けましておめでとうございます。

はじめに、介護・福祉・保育サービスの提供や地域福祉の最前線での相談・支援など、日夜御奮闘いただいている皆さまに深く感謝を申し上げます。

昨年は、元日早々能登半島地震が発生し、9月には同じ地域を洪水が襲いました。市町村社会福祉協議会や社会福祉法人・福祉施設など福祉関係者は、災害ボランティアセンター支援やDWA・AT活動などを通じて、厳しい環境の中、多くの方々の生活を支えられました。改めて心から感謝と敬意を表します。また、私たちは、コロナ禍や相次いだ災害を通じて、生命の尊さ、日常のあたりまえの暮らしや人と人のつながりの有り難さを再認識しました。京都府社会福祉協議会においても、災害

発生が頻発化、激甚化する中、改めて災害福祉支援の重要性を噛みしめ、「備えよ、常に」のとおり平時からしっかりと備えてまいりたいと考えております。

さて、世界を見渡しますと、戦争による国際秩序・安全保障の不安定化やグローバルな社会経済システムの混乱が進んでおりますし、我が国をみても、これらの影響を大きく受けるとともに、人口減少や少子高齢化、地域社会の衰退といった課題も深刻化しています。また最近の物価高騰なども相まって、高齢者、障害者、ひとり親家庭など社会的に弱い立場にある方々が特に大きな影響を受けているという実態が浮き彫りになりました。コロナ禍を経て、生活困窮や孤独・孤立等、様々な地域課題が顕在化していますが、つな

がりを紡ぎ直し、一人ひとりが大切にされ、支え合いながら誰もが安心して生活できる社会をつくるような取り組みがますます重要となっております。

京都府社会福祉協議会におきましては、令和7年度から新たにスタートさせる「第6次中期計画」に基づき、「つながりをいかして、だれもが尊厳をもつていきることのできる社会をつくる」という基本理念により、目指すべき社会に向かって、住民主体の原則により、時代の変化に立ち向かい、行政や地域福祉を進める住民・団体・施設と連携協働し、支える人と組織を支え、京都府らしい福祉の地域づくりを進めてまいります。

今後とも、行政や市町村社会福祉協議会、民生委員・児童委員、社会福祉

# 京都からのち輝く 未来を切り拓く

京都府知事 西脇 隆俊



明けましておめでとうございます。府民の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、元日に能登半島地震が発生し、8月には初めて南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。改めて「危機管理」がいかに行政における根幹的な役割であるか、ということを感じた一年であり、新しく整備した常設の危機管理センターを拠点として、全ての営みの土台となる府民の皆さまの安心・安全の確保に全力で取り組んでまいります。

一方で、昨年は府立植物園や京都丹後鉄道・宮津線が100周年を迎えるとともに、国内最大規模の国際スタートアップカンファレンス「IVS」を2年連続で京都で盛大に開催し、次の100年に向けて多様な価値を生み

出していく新たな一步となった一年でもありました。

「万巻の書を読み、万里の道を往く」。これは「最後の文人画家」と称された富岡鉄斎の座右の銘です。書物を読み各地を巡って多くの事象に触れることを実践した彼は、その経験の中から多様な価値を見出しました。都として交流の中心地であった京都には、鉄斎のような人々や文物が行き交い、そうした交流の中から人々の心の発露が文化という価値となって、京都から各地へもたらされました。新しい価値は絶え間のない交流から生まれます。文化庁とも手を携えつつ府内各地の多彩な文化の掘り起こしや磨き上げを行い、京都が守ってきた「人のつながり」を大切に、誰もが未来に夢や希望を持てる「あたたかい京都づくり」をさらに進めてまいります。

さあ、いよいよ大阪・関西万博が開幕します。日本における最初の博覧会が1871年にここ京都で開かれて以来一世紀半。今も昔もイノベーションが京都で生まれ続けているのは、技術の進歩を人々の幸せに結び付ける文化と心根が京都に息づいているからにほかなりません。今こそ私たちが大切に受け継いできた「継承」と「創造」の精神で新しい価値を生み出し、世界の人々を府内各地へいざない、大きな交流をつくり出すことで、京都からのち輝く未来を切り拓きたいと考えております。

今年は、再生と変化を象徴する巳年。時流を柔軟に捉え、努力を重ねながら、皆さまと共に進んでまいれる所存です。今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。



法人・福祉施設、当事者団体、福祉関係団体、ボランティアを始め多様な分野の方々との連携を一層深めて、誰一人取り残されない地域共生社会の実現を目指して取り組んでまいりますので、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年の干支は、乙巳きのとまにあたります。干支の「乙」は草花が大きく育つこと、変化を表し、「巳」は、復活と再生、成長を意味します。厳しい社会環境にあっても、皆さまとともに進めてきた社会福祉活動をさらに進め、全ての人たちにいきわたる年にしていきたいと願っています。

皆さまにとりまして、本年が素晴らしい一年となりますことを心からお祈り申し上げます、新年の御挨拶といたします。



## 令和6年度 人権擁護啓発ポスターコンクール

### 京都府社会福祉協議会会長賞が決定しました！

基本的人権について一層理解を深め、人権尊重の精神を養う機会とするため昭和59年度から人権啓発ポスターコンクールが実施されています。今年度は166校3,409点の応募があり、京都府社会福祉協議会会長表彰として、八幡市立男山東中学校 新林萌々香さんの作品が選ばれました。作品は人権情報ポータルサイト「京都人権ナビ (<https://kyoto-jinken.net>)」でご覧になることができます。

# 京都府の福祉や地域づくり施策に生かす

## 京都府知事と社会福祉関係者との懇談会を開催

京都府知事と府内の社会福祉関係者との懇談会を10月30日に京都府庁にて開催しました。京都府の福祉や地域づくり施策に生かしていただくため、地域における福祉課題や現場の声を届け、西脇隆俊京都府知事から京都府政の方針や福祉への思い等を聞かせていただく機会となりました。

### 社会福祉協議会関係者から

- ◆身寄りのない一人暮らしの高齢者等が増える中、法人後見の実施や居住支援、入院・施設入所時の身元保証等の生活課題に応える支援体制を強化していきたい。法人後見を次年度に本格的にスタートしていくため、予算措置を是非ともお願いしたい。
- ◆福祉分野の生産性向上の推進は、福祉サービスの質向上と担い手不足の緩和につながる。効果的な施策を進めるために、資金面など府の支援をいただきながら役割を果たしていきたい。
- ◆地域福祉権利擁護事業の住民税非課税世帯の利用料公費負担の予算について、令和6年度中に不足をきたすので、



懇談会の様子

庭を対象とする奨学金制度の創設などもお願いしたい。

◆スポーツや障害者週間の広報・啓発などの事業は、各会員団体の活力の源である。実施に必要な補助金が停止や減額されると、団体活動の衰退に拍車がかかり、休止や解散する団体も出てくる可能性があるかと懸念している。

◆各地域の親の会から、親亡き後の課題や障害の特性と程度に応じた「住まい」「支援・見守り」が必要との声がある。また障害福祉職員の人材不足により、事業所の安定した運営や適切な支援に支障をきたさないか、虐待等につながるのではないかと声が出ている。

◆母子家庭の自立には積極的な正規雇用施策や、子育てと就業の両立のための公営住宅への優先入居、保育所の優先入所等の支援が必要。また、居住地による格差なく適切な医療を受けられるよう、国による新たな助成制度の創設等が必要。

◆精神障害者本人をケアしている家族も、当事者と同じくらい生きづらさや生活のしづらさを常に抱えている。家族も同じ当事者として施策・制度の構築が必要。

◆認知症施策の立案・実施や評価には当事者、家族の意見が大切だが、当事者や家族の負担にならないよう自由に

早急に補正措置をいただきたい。

◆温ったか京都・寄り添いワーカーを配置し、ソーシャルワーク機能の強化と積極的に地域のセーフティネットの充実に取り組んでいくので、引き続きの支援をお願いしたい。

### 福祉施設関係者から

- ◆人材定着として、働きやすい職場づくりや業務省力化のためのICT導入等に係る、補助及び多くの他府県において既に設置されている相談窓口の設置をお願いしたい。また人材確保のため、全産業の平均賃金と遜色ない水準までの処遇改善が実現できるように、国に対して要望をお願いしたい。
- ◆今般の能登半島地震でも活躍した京都D・W・A・Tについて、京都府においても、他府県で実施されている派遣日の日当等の支払いをお願いしたい。また、災害救助法等の災害法制への「福祉」の位置づけについて国に対して要望いただきたい。
- ◆社会福祉施設の倒産が上半期で最も速いペースで増加しているため、昨年度実施された京都府医療機関等物価高騰対策事業交付金について、今年度も実施をお願いしたい。
- ◆建築費の高騰により施設の修繕等が困難であるため、府独自の福祉施設建



出席者一人ずつにコメントする西脇隆俊京都府知事

交付金については国の交付金を使っているため、国の動きを見ながら検討したい。建設費については、状況をよくみて国にも要望していきたい。

◆民生児童委員のなり手確保の課題については今後も活動PRや活動されている方に人員を発掘していただくなど、地道な取り組みをお願いしたい。父子家庭の奨学金などについては、限られた予算の中だが、ニーズは拾い上げていかなければならないと認識している。

◆今般の身体障害者団体への国庫補助金の減額で事業実施が困難な状況というのは重く受け止めており、6月に国に要望し、全国知事会を通じた働きかけも行っている。

◆グループホームの整備促進や成年後見制度の理解促進、相談窓口の設置を図ってきた。災害時の個別避難計画を



参加者の皆さん

設補助制度について、補助単価の見直しをお願いしたい。

### 社会福祉団体関係者から

◆民生委員・児童委員のなり手確保については、PR活動と広報の推進、支援員制度の体制づくり、情報共有などのICT化など、民生児童委員活動がさらに推進できるよう、京都府の新たな予算確保と支援をお願いしたい。併せて母子家庭奨学金と同等の父子家

要支援者ごとに策定するように市町村にお願いしており、計画策定が進むよう今後も働きかけていく。

◆母子家庭の公営住宅の優先入居等については市町村と連携して進めていくとともに、正規雇用拡大や医療費助成制度についても国に求めていきたい。

◆精神障害者の家族への支援については保健所で取り組んでいるが、さらに皆さんと一緒に家族支援の考え方を普及する研修を進めていきたい。

◆オレンジプランは関係機関の積極的な取り組みや団体間の連携を深めながら推進することが重要。地域ごとに状況は異なるので保健所と市町村の連携を強化して推進していく。

◆元気な高齢者の方はまだまだ地域で活動してもらいたいので、必要な支援に努めたい。

西脇知事から一人ひとりの発言に対して丁寧なコメントをいただきました。京都府社協では、今後とも社会福祉関係者の思いや現状を京都府と意見交換する場が重要だと考えています。地域福祉の充実を目指して京都府の施策と現場の実践を繋げていきますので、皆さま方のご支援ご協力をお願いいたします。

# 権利擁護支援を必要とする人が豊かに地域で暮らすことができる社会を目指す

## 〜京都らしい総合的な権利擁護支援体制の構築を〜

### 権利擁護支援の必要性が高まる背景

日本社会は少子高齢化、人口減少といった大きな課題に直面しており、家族や地域社会などのつながりが希薄化し、社会的孤立が深刻化する中で、権利擁護・生活支援の必要性が増大しています。国においては、成年後見制度利用促進基本計画に基づく政策が推進され、民法（成年後見法制）の見直しが進められています。

京都府においては、第4次地域福祉支援計画を令和6年3月に策定され、京都府社会福祉協議会（以下、京都府社協）の提言を受けて、「権利擁護支援の需要の増加に対応」、「利用者の状

況に合わせた切れ目のない支援」ができるよう、「地域福祉権利擁護事業（以下、権利擁護事業）」に加えて、法人後見体制の構築や多様な権利擁護支援ニーズへの対応など総合的な仕組みづくりを推進する」とされています。

### 地域福祉権利擁護事業の役割と実情

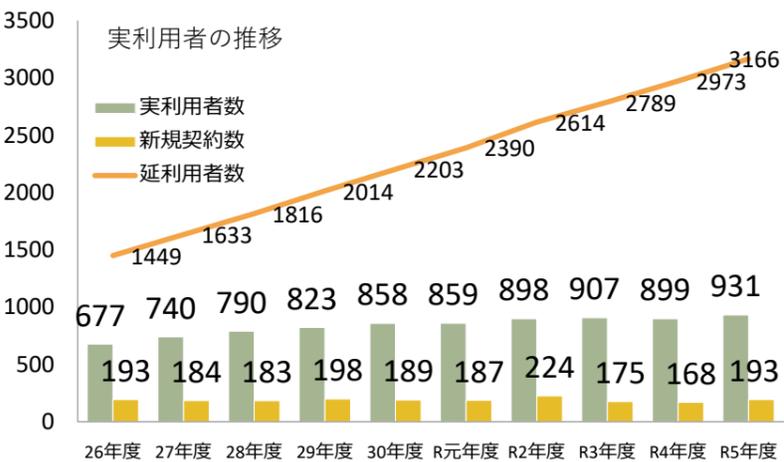
（1）地域福祉権利擁護事業の役割  
権利擁護事業は、本人が希望する地域での豊かな暮らしを支え、自己決定や意思決定をサポートするものです。支援の内容は、①福祉サービスの利用援助、②日常的な金銭管理支援、③書類整理、④通帳や印鑑、重要書類の預かりサービスです。各市町村社協に配

置される専門職員とともに、住民の生活支援員が業務を担っています。

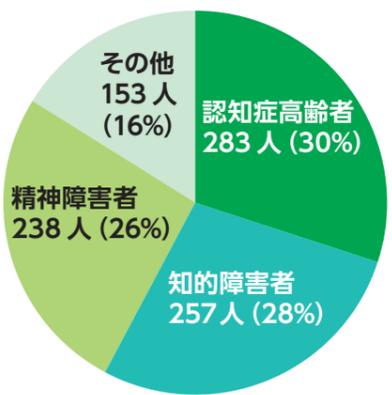
### （2）現状と課題

権利擁護事業は、社会福祉基礎構造改革（措置から契約へ）の流れの中で平成11年10月から開始し、25年の歴史を重ねてきました。利用者数は増加の一途をたどり、住民税非課税世帯や障害世帯に属する方の割合が高まっています。また、複合的な生活課題を抱える方への支援ケースも増えています。

一方、過疎地域では、成年後見制度による支援を中心的に担う3専門職種（弁護士、司法書士、社会福祉士）が少なく、権利擁護事業の本来の守備範囲を超えて、高額預貯金の管理や重要な契約締結行為の支援を必要とされる場面が増えています。



障害別・利用者内訳（令和5年度末：931人）



### 総合的な権利擁護支援の展望

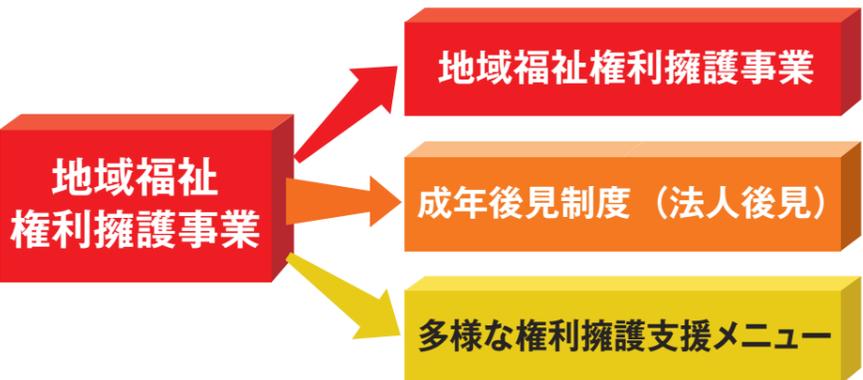
京都府社協は、令和4年度に実施した「京都府社協が担う法人後見あり方検討会」での議論を踏まえ、法人後見体制の整備とともに、多様な権利擁護支援メニューの開発と整備が必要であると考えており、令和5年度からは、厚生労働省モデル事業に取り組んでいます。

#### ①法人後見体制の整備

社協が法人後見体制を整備すると、権利擁護事業利用者の支援を継続的に行えることや行政や地域包括支援センター等の相談支援機関、医療機関など幅広い関係機関の協力を得て、本人の生活全体を見守りながら成年後見制度によるサポートができるというメリットがあります。今後、地域の社会福祉法人等の参画や協力も得ながら、地域の権利擁護支援体制の構築に協力する必要があります。

#### ②新しい支援メニューの開発

生活の困りごとに対応できるような、多様な権利擁護支援メニューの開発や体制の整備を図る必要があります。具体的には、居住支援や入院・入所時の身元保証、終活支援、死後事務委任契約、緊急時連絡対応といった支援が挙げられます。これらの支援は、各市町村において権利擁護支援ニーズを把握



移行の推進、孤独・孤立が深刻化する地域社会において、権利擁護支援体制の整備が急務となっています。家族や地域のつながりが希薄化する中で、支援の仕組みを構築することは、地域共生社会の実現に向けた重要な一歩となります。

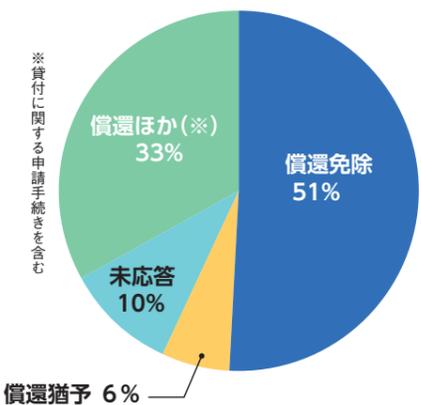
京都府社協では、認知症や知的障害等により判断能力が不十分な方が、全ての人の尊厳が大切にされ、生きがいをもって豊かに暮らせるよう、自己決定・意思決定を支える包括的な地域支援体制に向けて権利擁護支援の総合的な仕組みづくりを京都府に提言しており、併せて必要な財源措置をお願いしています。

# 特例貸付フォローアップ相談・支援事業

## 貸付だけで終わらない 継続的な支援を

京都府社協では、生活福祉資金特例貸付の借受人に対して、債権管理業務を通じて社会福祉協議会における生活困窮者支援及びソーシャルワーク機能の強化を図っています。フォローアップ相談・支援事業は、生活困窮状態が続く借受人等が地域で安心して暮らすことができるよう、市町村社協等と連携・協力して償還相談や生活支援の推

特例貸付の償還状況  
(令和6年10月末現在)



※貸付に関する申請手続きを含む

進、地域のセーフティネットの充実を図ることを目的に令和5年度から実施しています。

特例貸付の借受人世帯の中には、償還開始後も収入が安定しないなど様々な事情で生活状況の改善が進まず、貸付金の償還はもとより日々の生活に困窮している世帯が少なくありません。そのため、各市町村社協に「温ったか京都・寄り添いワーカー」を配置し、活動に取り組んでいます。借受人に対する面談や相談会の開催、社協事業による支援や自立相談支援機関等の関係機関との連携により、住民に寄り添いながら様々な支援を進め、生活困窮者を支える地域づくりを進めています。

### 実践報告会を開催

京都府内のフォローアップ相談・支援事業を推進し、市町村社協同士の情報交換の場として11月8日に実践報告



会を開催しました。市町村社協から40名の方が参加しました。各市町村のフォローアップ相談・支援事業に対するこれまでの取り組みや課題についてまとめたアンケートを実施したところ、「相談者が本気で話せる」や「課題の解決を優先せず、伴走し続けながら支

援する」といった借受人に寄り添ったスローガンを掲げている社協がありました。また、課題として困難ケースへのスローペース、連携先の新規開拓などが挙げられました。当日のグループワークでは、いつもとは違う視点での気付きを得たり、新たな方法を見つけたりできたとの意見がありました。後半は普段の業務を共にする同市町村のグループに再編することで、今後のフォローアップ支援にどう向き合っていくのかを考える時間を設定しました。京都府社協としても、市町村社協への巡回をはじめ、生活支援のスキルアップなど市町村社協からの意見を汲み取りながら、市町村社協と伴走した事業運営や取り組みを実施することの重要性を改めて確認する機会となりました。

## 温ったか京都・寄り添いワーカーの取り組み

### 相談から見えてくる 課題について

八幡市社会福祉協議会 高野 秀雄氏



これまで社協と関わりが無かった人が大勢借り入れをされたが、借受人等への支援の中で、コロナ禍以前から生活困窮状態であったが、コロナをきっかけにより顕在化したケースが多いと感じている。また、コロナが落ち着いてもなお物価高騰が続いており、困窮世帯の拡大は止まらないとも考えている。そういった方々を対象にアンケートを行ってきたが、一つの生活課題ではなく、複合的な課題を抱えている世帯も多いことがわかった。



八幡市社協では、相談者に寄り添い、「一緒に考える」ことを大切にし、独自に考案した「フォローアップシート」や「アウトリーチ表」などを活用し、継続的な支援を実施してきた。本人の家計状況によっては、家計改善支援事業（自立相談支援事業）で使用している「家計表」を利用し、相談者自身が家計の状況を具体的に把握できるように工夫している。

### フォローアップ支援に おける多機関連携支援

南丹市社会福祉協議会 山本 淳仁氏



南丹市では、地域福祉コーディネーターも兼務する旧町各拠点の4名と本所の専任ワーカー5名体制で電話やLINEで借受人に連絡を取り、ご自宅を訪問して近況を聴いている。今も困窮されている方には、自立相談支援機関（社協が受託）や福祉事務所と緊密に連携を図り「誰ひとり置き去りにしない支援」を目指している。

生活相談会は旧町の地域特性に根ざして実施している。イベントを通じて関わりのあった京都信用金庫から声掛けがあり、店舗内で相談会を実施できたこともあった。住民が日常的に利用する場所が会場なので、「人目を気にせず入りやすかった」との声もいただいた。待ち受けるだけでなく、住民の生活圏に向く工夫にも力を入れている。

また、ワーカーは普段旧町に分かれて業務に従事しているため、月1回顔を合わせてケースを共有し、個別支援と地域支援の両面から幅広く支援のあり方について議論することを大切にしている。



### アウトリーチにおける 個別訪問の実際

宇治市社会福祉協議会 野津 典子氏



償還期限が迫っている貸付にフォローカスをあて、その中でも償還滞回数が多い世帯に向けたアプローチの実践に取り組んでいる。突然本人宅へ訪問するのではなく、まずは架電にてアプローチを行い、電話は日時を変えて最低でも3回以上行うなど、配慮している。訪問の際には、借受人が不在であることを想定し、不在票を作成。その中には「償還」という言葉を使わず、借受人が不安にならないよう工夫し、自分達「温ったか京都・寄り添いワーカー」を知ってもらおうきつけ作りを行った。訪問で借受人に会えた際にも、償還の督促を目的にするのではなく、「今借受人がどういった生活状況で、どのようなことに困っているのか」を聞き出すことに力を入れている。本人の生活がどのようになればこれから良い方向に向かっているのかを考えた寄り添った支援を行っている。



経験や感情を  
共有できる  
存在でありたい



あらぐさ福祉会 生活支援員 ● 田口 芽生さん



◆この職場を選んだ決め手は？

学生時代の実習先で、障害者福祉の分野に携わりたいと思わせてくれた場所なので、ここで働きたいと思いました。

◆職場のいいところ

とにかくアットホームです。職場に父や母、友だちがいらっしゃる感覚(笑)で、ありのままの自分で働いています。

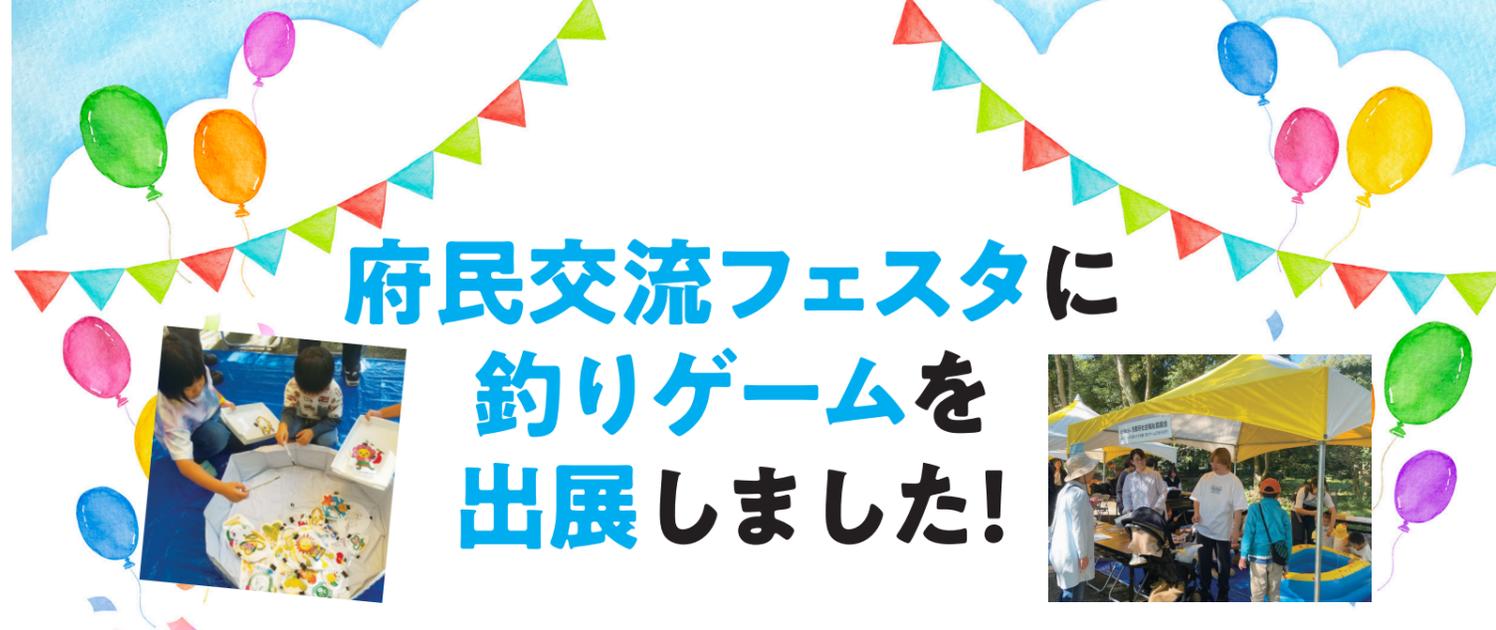
◆休日の過ごし方

子どもにいろいろな体験をさせたいので、テーマパークに行ったり、ワークショップに参加したりしてアクティブに過ごしています。

【施設名】(福)あらぐさ福祉会  
【場所】京都府長岡京市井ノ内広海道 42-3  
【URL】https://www.aragusa-fukushi.jp/  
【TEL】075-953-9212 【FAX】075-953-9215

お母様が幼稚園の先生だった影響で、幼稚園の先生を目指していた田口芽生さん。保育の専門学校で福祉を学び、授業の一環で障害者施設へ実習に行った際、転機が訪れます。「利用者の方がイキイキと過ごしていたのが印象的でした。この人たちの地域での生活を守るためには、障害者施設が重要な役割を担うと感じ、障害者福祉に興味を持つようになりました」  
こうしてあらぐさ福祉会に入職した田口さんは、現在二児の母親であり、就労継続支援B型の事業所に所属し、メンバー(利用者)と一緒に焼き菓子の製造やさをり織りの作業に携わっています。メ

ンバーは20代から50代まで、幅広い年齢層が在籍しており、田口さんはメンバーの年齢や体力に応じて作業環境を調整するなど、日々考えながらサポートしています。「その人が今できることをして、やりがいを感じてもらおうことが一番です。仕事へのモチベーションを失ってほしくないですから」  
支援員という立場ではあるものの、同じ職場で働く仲間として接することを心がけている田口さんに、今後の目標を聞きました。「メンバーにとって、さまざまな経験や感情を共有できる存在であり続けたいなと思っています」



府民交流フェスタに  
釣りゲームを  
出展しました!



令和6年11月3日に、京都府立植木園にて開催された「府民交流フェスタ」に、本会がブースを出展しました。  
本会のブースでは「みんなであつがる温ったか京都・釣りゲームであそぼう!」と題し、市町村社協のキャラクターや街中で見かける福祉に関するマーク(ヘルプマークなど)を釣り上げてもらいました。  
また、景品としてお渡ししたマグネットシートには京都府内の市町村社協のキャラクターをデザインし、社協を身近に感じてもらえる工夫をしました。  
親子連れを中心に、約600名の方にお越しいただき、「こ



の市に、こんなかわいいキャラクターがあったんだ!」「こんなマークがあつたんだ!」という声がたくさん聞かれました。釣りゲームを通じて、京都の市町村社協や福祉に関するマークについて、楽しく学びを深めてもらえる機会となりました。  
今後も府民のみなさんと直接交流できる機会を大切に、福祉の魅力の発信に努めてまいります。

**【ヘルプマーク】**  
みただけでは分からなくても手助けを必要として  
いる人がつけてるよ



ちょうかくしょうがいしゃひょうしき  
**【聴覚障害者標識】**  
きこえに障害がある人が  
運転する車についているよ



**【マタニティマーク】**  
おなかにあかちゃんがいることをわかってもらいやすくするよ



**福祉事業を始めるなら 賠償責任保険は必須です!**

福祉事業者総合補償制度 「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、  
安価な傷害見舞金補償制度など  
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

詳しい補償内容はこちらまで  
福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合保険代理店 **SRL 株式会社 エスアールエム**

専用TEL **075-255-0883**

福祉の保険ホームページ <https://srm.moushikomi.jp/>

引受保険会社: 三井住友海上火災保険株式会社  
この広告は保険の特徴を説明したものです。  
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。 仮1-10-1111

ボランティア活動には「ボランティア保険」  
イベントを開催される際には「福祉行事保険」も併せてご利用ください。



福祉専門チームによる安心の事故対応、京都市社会福祉協議会、京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。

## 京都府社会福祉協議会からのお知らせ

●ご寄贈・ご寄付ありがとうございました。ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。●

**寄贈** 令和6年12月10日『株式会社 One Taste』様 除菌アルコールスプレー 60箱 (1箱48本入り)

**寄付** 令和6年11月29日『公益財団法人京遊連社会福祉基金』様 500,000円

令和6年11月29日『一般財団法人近畿陸運協会』様 250,000円

令和6年12月4日『小畑英明』様 30,000円

令和6年12月4日『中井敏宏』様 10,000円

令和6年12月6日『Smile for Children』様 17,000円

令和6年12月23日『医療法人徳洲会』様 10,000円



### 京都府社会福祉協議会 第6次中期計画シンポジウム これからの京都の福祉と 未来を語り合う

京都府社協では現在、令和7年度から始まる第6次中期計画を検討しています。本シンポジウムでは、中期計画策定にあたり、次の5年に向けて京都の福祉をどのように描くのか、取り組むべき方策について、福祉関係者や広く府民の皆さんの声を聴き一緒に考える機会とすることを目的に開催します。

**日程** 1月27日(月) 14:00～16:30

**会場** ハートピア京都 3階大会議室  
(地下鉄烏丸線「丸太町駅」より徒歩約1分)  
(Zoom参加可能)

**対象** 京都府社協会員・京都府民

**申込** <https://38d80014.form.kintoneapp.com/public/d7>



### かいご・ふくし就職フェア向日市

向日市内で高齢・障害者支援事業所を運営する11法人が出展します。無資格・未経験の方も福祉の仕事に興味にある方はぜひお気軽にご参加ください。

**随時入退場可・服装自由**

**履歴書不要**

**日程** 1月25日(土) 13:00～15:30

**会場** 永守重信市民会館 2階 第2会議室  
(阪急京都線「東向日駅」より徒歩約15分  
JR京都線「向日町駅」より徒歩約20分)

**対象** 向日市内で仕事をお探しの方  
福祉の仕事に関心のある方  
(無資格・未経験者も大歓迎)

**問合せ先** 福祉人材課(京都府福祉人材・研修センター)

TEL: 075-252-6297

<https://fukujob.kyoshakyo.or.jp>



●本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

<https://www.kyoshakyo.or.jp> 京都府社協

検索



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。

研修課ではさまざまな研修を企画・実施中です。令和6年度に実施予定の研修は右記二次元コードよりご覧ください。

**HP** <https://www.kyoshakyo.or.jp/topics/news/9286>



現在、募集中の研修は右記二次元コードよりご覧ください。

**HP** <https://www.kyoshakyo.or.jp/topics/boshyu>



### サイバー攻撃への備えは万全ですか？

損害賠償金の負担や対応費用の支出など  
経済的な損害への備えのみならず、

三井住友海上の

「サイバープロテクター」がお役に立ちます！

※お近くの保険代理店へご相談ください。

MS&AD 三井住友海上